



中野 晴啓からのメッセージ

8月初めの国内株急落と円高急進行は、7月末に実行された日銀の利上げがマーケットにとってはネガティブサプライズだったことを主因とした株式市場の過剰反応で、振り返れば日本株にある程度限定された動きだったと言えます。

とは言えこの市場激変によって、日銀のゼロ金利政策→円安→株高という、言わば投機筋に都合良いサイクルは終焉を迎えたわけです。ここから金融政策のベクトルが、日本の利上げ方向と米欧の利下げ方向のコンフリクトを前提とした円安水準の修正、殊に日本のマクロ経済に与える影響を反映して、国内株式市場の価格水準が定まって行くと同時に、円高への是正環境下でも底堅い業績を示す、強い企業の「見える化」が顕著になることでしょう。

短期的な景気動向にも、目先の相場環境にも揺るがず、安定した事業価値拡大を実現して行ける企業がクオリティ・グロースです。グローバルに定着し恒常化するインフレ前提社会において、インフレ経済を所与として克服し、安定して事業成長機会に出来る強い企業が、これからの株式市場の価格形成を先導して行くはずで、クオリティ・グロースを標榜する本格アクティブ運用が本領発揮しやすい環境になって来ました。

そこを楽しみにワクワクと、長期投資をご一緒にまいりましょう！



なかのアセットマネジメント株式会社
代表取締役社長 中野 晴啓

ポートフォリオマネージャー山本 潤より



なかの日本成長ファンド
ポートフォリオマネージャー
山本 潤

「日銀ショック」で誘発された円高が日本株安を引き起こし、8月は暴落で始まりしました。

市場は混乱しましたが、ファンドの保有先の企業価値には大きな変化はありません。とはいえ基準価額が大きく下落したため、8月2日、5日そして6日の3回に渡り「市場の下落は一過性であり心配はない」との趣旨のプレスリリースを出しました。

狼狽売りもあると覚悟しましたがそれは杞憂でした。わたしたちのお客様は真の長期投資家であり、狼狽するどころかこの暴落局面で悠然と買い向かってくださいました。お蔭様で当ファンドは毎日のように過去最高の残高を更新し続けました。みなさまの長期投資家ぶりは実にあっぱれでした。素晴らしいお客様に恵まれたことに感謝しています。

8月は暴落局面で新たに4つの新規銘柄を組み入れることができました。いずれも長期的な展望が持てるクオリティ・グロース企業です。8月は決算発表が多く、中には大きく株価が変動する投資先もありましたが、いずれ企業価値に収れんしていくため、個別投資先の株価動向には一喜一憂しないでくださると幸いです。私たちは運用の高度化を目指しプロフェッショナルとして日々奮闘・精進いたしますが、株式投資である以上、過ちも生じます。長期保有を志すとはいえ、中には見込み違いで売却せざるを得ない場合も出てきます。それを包み隠さず正直に皆さまへお伝えする運用会社でありたいのです。

試行錯誤や誠実な運用の先にあるのは理想への共感です。インバーストメントサイクルの輪を大きくして、未来の世代によりよい社会を手渡していきたいと考えています。

※ コメントの内容は過去の市場環境、運用実績および投資行動であり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではありません。
※ 巻末記載の「当資料をご利用にあたっての注意事項等」を必ずお読みください。

お申込みの際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

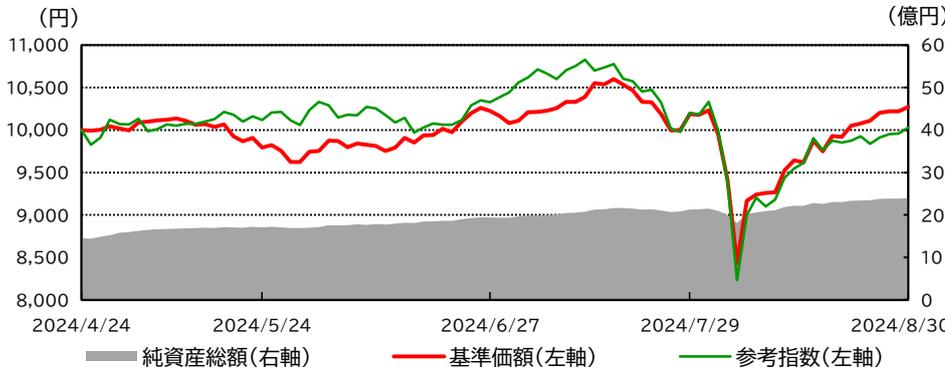
設定・運用は **なかのアセットマネジメント株式会社**
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3406号
加入協会:一般社団法人投資信託協会
ホームページ: <https://nakano-am.co.jp/>



当ファンドは、特化型運用を行います。

8月初旬の暴落時にポートフォリオにあった現金を使い新規4銘柄を購入しました。株価が割安になったクオリティ・グロース企業への投資の絶好の機会でした。マンスリーで購入理由についても詳しく書きました。運用部のメンバーコメント欄は、各自が自由に書く方針となりました。メンバーの個性が垣間見えるものになりました。また、エスプールの売却はわたしにとっても残念な出来事でした。定期的な対話があってこそ成り立つのがエンゲージメントです。対話が円滑にできない投資先をそのまま放置することは顧客に対して不誠実な運用になってしまいますので、売却については何卒ご了承ください。(山本 潤)

●基準価額及び純資産総額の推移(2024年8月末現在)



| | |
|-------|---------|
| 基準価額 | 10,274円 |
| 純資産総額 | 23億円 |

※ 基準価額は信託報酬控除後の価額です。
 ※ 参考指数は「TOPIX(配当込み)」であり、設定日の値を10,000円として計算しています。
 ※ 純資産総額は、単位未滿を切り捨てて表示しています。

●騰落率

| | 1ヶ月 | 3ヶ月 | 6ヶ月 | 1年 | 3年 | 5年 | 設定来 |
|-------|-------|-------|-----|----|----|----|------|
| 当ファンド | 0.4% | 5.4% | - | - | - | - | 2.7% |
| 参考指数 | -2.9% | -2.0% | - | - | - | - | 0.3% |

※ 基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

●資産の組入比率

| | |
|----------------|--------|
| なかの日本成長マザーファンド | 98.7% |
| 現金等 | 1.3% |
| 合計 | 100.0% |

●分配金実績(一万口当たり、税引前)

| 決算期 | | | | 設定来合計 |
|-----|---|---|---|-------|
| 分配金 | - | - | - | - |

※ 運用状況により分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

ポートフォリオの状況(なかの日本成長マザーファンド)

●ファンド指標

| | |
|-----------|-----|
| アクティブシェア※ | 93% |
|-----------|-----|

※ ファンドの組入れ内容がTOPIXとどれほど異なるかを測る指標です。80%以上が真のアクティブ型ファンドとされています。解説はコチラ⇒

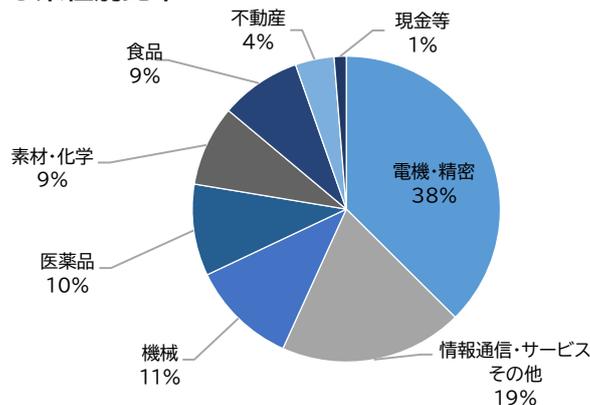


●時価総額別比率

| | |
|-----|--------|
| 大型株 | 59.6% |
| 中型株 | 26.2% |
| 小型株 | 13.0% |
| 現金等 | 1.3% |
| 合計 | 100.0% |

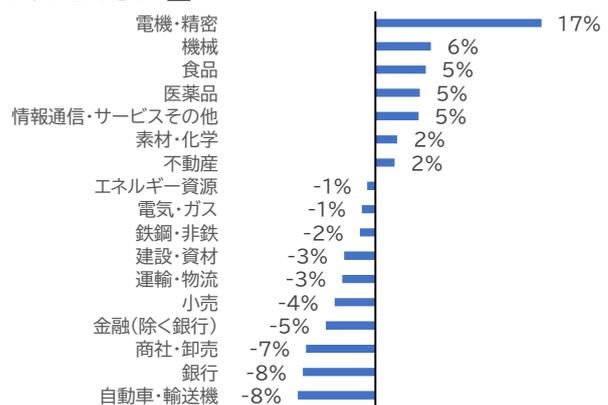
※ 大型株:5,000億円以上
 中型株:1,000億円以上、5,000億円未滿
 小型株:1,000億円未滿
 ※ Bloombergの情報を基に作成しております。
 ※ 比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。

●業種別比率



※ 「業種別比率」はTOPIX17業種の分類で区分しています。
 ※ 比率はファンドの純資産総額に対する割合です。

●TOPIXとの差



※ 「TOPIXとの差」はTOPIX17業種の分類で区分しています。
 ※ 現預金を含まないマザーファンドの業種別組入比率とTOPIX17業種との業種ごとの差を表示しています。

※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。
 ※ 巻末記載の「当資料をご利用にあたっての注意事項等」を必ずお読みください。



●組入銘柄概要

| | 銘柄名 (決算期末) | 銘柄コード | 業種 | 組入比率 |
|----|-----------------|---|-------|------|
| | | 銘柄概要 | | |
| 1 | ツムラ (3月) | 4540 | 医薬品 | 5.0% |
| | | 第1四半期は18.0%増収で営業利益は倍増以上となりました。急激な原材料の高騰と安定供給の問題に対応するため、4月の不採算品再算定では129品目のうち66品目の薬価がプラス改定となり、前年同期比で営業利益に大きく寄与しました。自社のメディカルサイト経由で医師一人ひとりの興味に合わせた情報提供を行うことで、医師一人当たりの処方数向上を目指します。 | | |
| 2 | ロート製薬 (3月) | 4527 | 医薬品 | 4.7% |
| | | 第1四半期は11.7%増収で4.4%営業増益でした。コストパフォーマンスに優れた商品展開により、構成比の大きい、日本とアジア圏で着実に数量を伸ばしています。昨年立ち上がったBLOOMIOという新スキンケアブランドの成長にも期待したいです。 | | |
| 3 | 扶桑化学工業 (3月) | 4368 | 素材・化学 | 4.5% |
| | | 第1四半期は大幅な償却費増加をこなし、27.8%増収、22.4%営業増益で堅調な決算でした。主力製品の高純度コロイダルシリカが半導体製造工程で使われるCMP(化学的機械的研磨)スラリー向けに想定超の出来です。高付加価値製品の比率が高まり値上げもしました。通期業績は早くも上方修正となりました。半導体製造工程向け高純度コロイダルシリカの使用量は長期的に拡大していくでしょう。 | | |
| 4 | 味の素 (3月) | 2802 | 食品 | 4.4% |
| | | 第1四半期は7.7%増収、事業利益は0.5%増でした。昨年買収した米遺伝子利用薬CDMO(医薬品開発製造受託機関)のForge社の赤字で事業利益の伸びが悪く見えるものの、各事業の需要は堅調で下期にかけて利益成長が見込まれます。半導体パッケージで使われる絶縁材料は生成AIの後押しもあり高単価な製品が売れたため、ファンクショナルマテリアルズセグメントの事業利益率が上昇した点もポジティブな決算でした。 | | |
| 5 | 朝日インテック (6月) | 7747 | 電機・精密 | 4.4% |
| | | 24年6月期は19.4%増収、21.2%営業増益となりました。コロナの影響もなくなり、どの地域でも循環器領域の症例数が回復したことに加え、積極的な営業活動を行ったことにより、主力のPCTAガイドワイヤーは各エリアで1-2%シェアを伸ばせています。25年6月期は堅調な需要が見込まれることに加え、投資が一巡したこともあり、粗利率の改善が期待できるでしょう。 | | |
| 6 | オムロン (3月) | 6645 | 電機・精密 | 4.2% |
| | | 制御機器事業だけでなく、全社で取り組む構造改革は着実に進展しています。制御機器事業の受注水準は期初見込を上回るペースで改善が進み、代理店の在庫水準も想定通りです。世界的な市場成長と高いシェアを誇る高品質の血圧計に支えられるヘルスケア事業も順調です。JMDC社のデータソリューションは、これからヘルスケア事業のみならず全社への効果が期待されます。固定費削減効果の進捗も計画通りです。 | | |
| 7 | 三井不動産 (3月) | 8801 | 不動産 | 4.1% |
| | | 第1四半期の決算は、12.3%増収、26.0%営業増益となりました。既存オフィスの賃貸収益や既存施設の売上が伸長したことに加え、ホテル・リゾートのADR(客室当たりの平均単価)が大幅に上昇するなど、総じて好調な決算となりました。 | | |
| 8 | 信越化学工業 (3月) | 4063 | 素材・化学 | 4.1% |
| | | 第1四半期は売上、営業利益ともほぼ横ばいになりました。前期は半導体市況の悪化に苦戦していましたが、市況回復の兆しがようやく見えてきました。また、同社が高い競争力を誇る北米の塩ビ事業も、金利の低下とともに住宅着工件数が増えることが予想されるため、需要が堅調に推移すると考えられます。 | | |
| 9 | ヤクルト本社 (3月) | 2267 | 食品 | 4.1% |
| | | 第1四半期は、0.4%増収、5.2%営業減益で増収減益となりました。主な理由は、国内乳飲料の販売本数がヤクルト1000ブームの反動から減少したためです。増産体制は整っていますが、新規顧客の開拓に課題が残ります。海外ではアメリカの好調さに加え中国の減収が底をついたことから、売上・営業利益ともに5.7%増の結果となりました。今後はアメリカのさらなる売上増、中国の回復に注目です。 | | |
| 10 | ダイキン工業 (3月) | 6367 | 機械 | 4.1% |
| | | 第1四半期は、14.3%増収、2.1%営業減益となりました。欧州のヒートポンプ暖房の需要減少が継続するなど、事業環境は大変厳しい状況でしたが、戦略的売価施策やトータルコストダウンの徹底により、主力の空調事業では微増益を確保するなど、同社らしい実行力の高さが見られる四半期でした。 | | |

※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

※ 巻末記載の「当資料をご利用にあたっての注意事項等」を必ずお読みください。



●組入銘柄概要

| | 銘柄名 (決算期末) | 銘柄コード | 業種 | 組入比率 |
|----|--|---|--------------|------|
| | | | 銘柄概要 | |
| 11 | 島津製作所 (3月) | 7701 | 電機・精密 | 4.0% |
| | | 第1四半期は7.1%増収で17.3%営業減益となりました。中国での需要減少により減益となりましたが、政府の支援策もあり少しづつ回復に向かっています。需要のボトムアウトが確認できたこともあり、決算後に株価は上昇に転じました。 | | |
| 12 | 日本電子 (3月) | 6951 | 電機・精密 | 3.7% |
| | | 第1四半期は26.8%増収で営業益は急伸し前期の3倍に伸ばしました。産業機器事業はシングルビームタイプのマスク描画装置の中国向け拡大が寄与しました。ただし、付加価値の高いマルチビーム描画装置の光源ユニットの受注は一服しています。一方、理化学機器事業は、収益性が向上しました。製品力が上がったためです。たとえば透過型電子顕微鏡は製薬及び半導体といった採算の高い顧客向けが伸びています。 | | |
| 13 | 浜松ホトニクス (9月) | 6965 | 電機・精密 | 3.7% |
| | | 9か月累計決算は前年同期比4割の減益となり、9月本決算の業績は下方修正でした。コロナ特需の反動減で顧客の在庫調整が長期化したためです。しかし、最終需要はアカデミア向け、医療機関向けともに増加傾向です。ですから来期以降の売上は回復基調となります。半導体製造装置向けや自動運転向けは同社が近年大きく成果を上げ始めた分野です。同社はまた、量子コンピューター実現のための主要技術を保有しています。 | | |
| 14 | ローム (3月) | 6963 | 電機・精密 | 3.7% |
| | | 同社は積極的な設備投資をしましたが、産業機械の市場低迷の影響で在庫調整が必要になりました。稼働益が落ち、減価償却が上がり第1四半期は大幅な減益になりました。市況の悪化は一時的と見ており、産業機械についても、来期以降は回復局面に入ると見ています。SiCパワー半導体は8インチウェハーが立ち上がりました。東芝のパワー半導体との協業も進行中です。株価は割安であり保有を継続する方針です。 | | |
| 15 | 技研製作所 (8月) | 6289 | 機械 | 3.6% |
| | | 9か月累計決算は、4.4%増収、30.4%営業増益となりました。海外の製品販売が大きく増加したほか、災害復旧、国土強靱化等で工事は順調に増加しました。台湾、インドネシア、ブラジルに加え、マカオ最大手の基礎工事会社に製品を納入するなど、同社製品のプレゼンスは世界でも着実に高まっています。 | | |
| 16 | 日立製作所 (3月) | 6501 | 電機・精密 | 3.6% |
| | | 第1四半期は、4.8%減収、51.4%営業増益となりました。日立Astemoを除く3セクターベースでは、売上収益が同21%増と、実体は非常に好調です。DX需要の高まりを背景に受注高は高水準で推移していることに加え、プライシングの見直しやプロジェクトマネジメントの強化による、さらなる収益性向上が見込まれます。 | | |
| 17 | ジャパンエレベーター サービスホールディ ングス (3月) | 6544 | 情報通信・サービスその他 | 3.6% |
| | | 第1四半期は、21.6%増収、47.1%営業増益と好スタートでした。コア事業の保守保全契約台数が順調に伸び、過去最高の純増数でした。利益率が高いサブコア事業のエレベーターリニューアル実績も、旺盛な需要を背景に伸びました。事業別売上構成比の改善が続いていることで、営業利益率も我々の想定している2027年の目標である20%に着実に近づいております。 | | |
| 18 | ジャストシステム (3月) | 4686 | 情報通信・サービスその他 | 3.6% |
| | | 第1四半期は、7.0%増収、5.3%営業増益と非常に好調なスタートとなりました。また個人向け事業の売上高は前年同期比で5.7%増、法人向け事業は10.6%増でした。個人向け事業では国内スマイルゼミのミックス改善と米国スマイルゼミの売上拡大、法人向け事業ではJUST、DBというノーコードクラウドデータベースのさらなる売上増加を期待しています。 | | |
| 19 | 村田製作所 (3月) | 6981 | 電機・精密 | 3.5% |
| | | 第1四半期は、14.7%増収、32.5%営業増益と、増収増益で着地しました。主力である積層セラミックコンデンサ(MLCC)は、コンピューターやモビリティ向けを中心に広い用途で増加しました。想定を上回るAIサーバー向けの需要がコンピューター向けの売上を押し上げています。受注高も増加しています。 | | |
| 20 | 荏原製作所 (12月) | 6361 | 機械 | 3.5% |
| | | 6月上旬の決算は8.4%増収、18.3%営業増益と堅調でした。受注、売上、営業益とも上半期として過去最高の業績です。セグメントでは精密・電子の受注高が前年比で大幅に増加しました。主力のCMP装置やドライ真空ポンプに加えて、生成AI半導体向けにウェハーレベルのパッケージ対応となる、めっき装置の受注を獲得しました。その他セグメントも総じて堅調でした。通期の全社受注高の計画もあわせて上方修正となりました。 | | |

※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。
 ※ 巻末記載の「当資料をご利用にあたっての注意事項等」を必ずお読みください。



●組入銘柄概要

| | 銘柄名 (決算期末) | 銘柄コード | 業種 | 組入比率 |
|----|------------------------------|-------|---|------|
| | | | 銘柄概要 | |
| 21 | オリンパス (3月) | 7733 | 電機・精密 | 3.5% |
| | | | 第1四半期は14.6%増収、21.4%営業増益となりました。ほかの医療機器メーカーと同様に中国では反腐敗運動の影響を受け苦しい状況が続いていますが、北米では消化器内視鏡の新製品(EVIS X1)が好調で現地通貨ベースで約50%の成長となりました。600億円の費用捻出が必要とも言われるFDA(米食品医薬品局)からの警告書に対する対応も着実に進んでいます。 | |
| 22 | オロ (12月) | 3983 | 情報通信・サービスその他 | 3.3% |
| | | | 6月上旬の決算は2桁増収、2桁増益で着地しました。主力のCS(クラウドソリューション)事業は月額課金で安定的です。顧客数は着実に増加しています。また、サービス単価もしっかり増加傾向です。上期はCS事業におけるカスタマイズ案件が計画比でやや出遅れとなったものの全体としてみれば利益は計画通りの決算でした。主力製品のZACは中堅企業向けですが将来は大企業向けの拡販も視野に入れています。 | |
| 23 | イリソ電子工業 (3月) | 6908 | 電機・精密 | 3.2% |
| | | | 第1四半期は、0.3%増収、80.3%営業減益と、増収は確保したものの、大幅減益の決算となりました。今後、通期会社計画も見直しを余儀なくされる公算が大きいです。減益の要因は原材料価格の高騰、為替影響や新システムの立ち上げトラブルなど一過性のもも多いため、市場は徐々にEV向け製品の拡販など、中長期的な成長ストーリーの評価に関心が移っていくものと考えています。 | |
| 24 | カカクコム (3月) | 2371 | 情報通信・サービスその他 | 3.1% |
| | | | 第1四半期は、15.3%増収、34.9%営業増益と素晴らしい結果となりました。特に求人ボックスと食ベログの伸びが大きく、求人ボックスは月間利用者数が過去最高を更新、食ベログは市場拡大+営業強化で売上を伸ばしつつ、営業利益率も大幅に改善しました。今後は食ベログの新規事業であるインバウンド向け予約サービスの成長が期待され、食ベログ全体の売上はさらに増加していくと想定しています。 | |
| 25 | プラスアルファ・ コンサルティング (9月) | 4071 | 情報通信・サービスその他 | 2.9% |
| | | | 主力のHRソリューション事業で、安定した業績が見込めるリカーリング型収益により、1)エンタープライズを中心とした顧客数増、2)機能数増加を背景にした単価増、3)低水準の解約率を維持し、前年比34%増のきれいな上昇曲線を描きます。エンゲージメントの向上や企業風土の醸成に向け、非上場企業においても人的資本開示への取組が加速することは、同社への追い風となっています。 | |
| 26 | ラクス (3月) | 3923 | 情報通信・サービスその他 | 2.8% |
| | | | 第1四半期は、35.4%増収で営業利益は倍増しました。楽々精算・楽々明細での、インボイス制度に伴った昨年のインボイス制度法要件対応需要の反動は、来四半期の新規受注見込みが今四半期を上回る見通しが高まるなど、好印象でした。楽々明細からスピノフする楽々請求も、いよいよ10月から提供開始で、来期年間10億円程度の増収寄与が見込まれます。 | |

※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。
 ※ 巻末記載の「当資料をご利用にあたっての注意事項等」を必ずお読みください。



●新しく組み入れた銘柄の紹介

【三井不動産】

街づくりを得意とする大手不動産企業です。

「&マークの理念」という経営ビジョンは、同社に連綿と受け継がれてきたDNAが結晶化されたものです。これは、対立する概念を「or」でどちらか選ぶのではなく、「&」で共生させることで、持続可能な社会を実現していくことを意味しています。

こうした理念のもと、時を経るほど味わい深く魅力が増していく「人が主役」の街づくりに長年取り組み、素晴らしい実績を残しながら確かな知見やノウハウを積み重ねている点を、なかのアセットマネジメントでは高く評価しています。

2030年までの長期経営計画「& INNOVATION 2030」では、「社会的価値」と「経済的価値」を両輪として創出していくという、ありがたい姿を「妄想」し、戦略を「構想」することで、「実現」に繋げていくことを掲げています。

「働く」「暮らす」「楽しむ」「憩う」など、様々なニーズに応えるソフトとハードを融合させた街づくりは、顧客に高い満足度すなわち付加価値をもたらし、2030年前後の定量的目標である「EPS成長率年8%以上」と「ROE10%以上」を達成する源泉になると考えています。(佐藤 栄二)

【日立製作所】

国内最大手のITシステムのインテグレーターです。

近年は経営改革により選択と集中を進め、IT、電力、鉄道などの同社がコアと定めた成長事業を選択的に強化しています。ITシステムでは、Lumadaと同社が呼ぶデジタル技術でリアルとバーチャルの世界を「つなぐ」デジタルツイン技術で顧客の事業効率を高めるシステムを提供しています。

Lumadaでは現実を理想に近づけることができるため、適用範囲は広く、製造業をはじめ物流や販売など様々な分野で成果を出しています。情報が価値を生む時代となり、同社には追い風が吹いているのです。

GAFANなどのグローバル大手のITを支えるオフショアの領域でも東欧などで売上を伸ばしています。環境に優しい鉄道事業ですが、同社はハードウェアだけではなく、運行管理システムというソフトウェアを含めてグローバル展開しています。また、脱炭素に必須な洋上風力発電に必須となる効率的な高圧直流送電の技術に強みがあり送電システムで高シェアを誇ります。

いずれも自社の事業にLumadaを適用済みであり、自社事業の収益性を改善させています。日本のIT大手は、グローバル展開に課題があるのですが、日立はグローバルでも成果を出しています。また、ガバナンスも一流であり、国内においてはすでにジョブ型雇用への移行を終えています。(山本 潤)



●新しく組み入れた銘柄の紹介

【荏原製作所】

標準ポンプの国内最大手です。

同社のポンプは消費電力が小さく、脱カーボンの時代にフィットしているため世界でのプレゼンスが高まりつつあります。電力インフラに乏しい新興国においても同社の太陽光駆動の水ポンプが活躍しており、安全な地下水を人々に日々届けており、こうした同社の社会的意義をわたしたちは評価しています。

異常気象時には大都市の水没防止が大きな社会課題ですが、これを防ぐための大規模ポンプによる排水システムも同社の独断場です。新エネルギーとして注目されている水素ビジネスにおいても、製造、運搬、貯蔵という水素サプライチェーンの全工程に貢献が期待できる製品群を開発済みです。

電子精密事業では、半導体の製造工程におけるCMP装置やドライ真空ポンプを大手ファウンドリー向けに提供しています。最先端のEUV露光装置に不可欠な排気システムも同社が提供をしています。

生成AI向けに市場が拡大している半導体中工程と呼ばれるウェハーレベルのパッケージ向け、めっき装置も新規で受注を獲得するなど、同社の半導体関連事業は全方位的に急成長を遂げています。

近年のガバナンスの改革によって、社員のモチベーションや意識が高まり、結果として、すべての事業領域で収益性が向上しています。(山本 潤)

【信越化学工業】

信越化学工業は塩化ビニル樹脂と半導体の材料であるシリコンウェハで高いシェアを持つ、日本を代表する化学メーカーです。

強みを簡潔に表すなら、少数精鋭の生産性が非常に高い組織力によって「フル生産フル販売」を継続できている点です。塩化ビニル樹脂は住宅の排水管や窓枠、壁紙など様々な用途で使われる樹脂で、作ること自体は決して難しくありません。

同社が主戦場にいる北米にも大手の競合が4-5社存在し、厳しい競争にさらされています。にもかかわらず、同社の塩ビ樹脂を主体とした生活環境基盤セグメントの営業利益率は20%から市況の良い時で40%と高い収益性を誇ります。その秘訣はグループ内にエンジニアリング会社を有することで生産性の高い設備を構築で来ていることに加え、長年磨き上げた効率的なオペレーションにより他社よりも少ない人数で事業を回していることがあげられます。結果として安く製品を作ることができるため、市況が悪化した時にも操業度を高く保つことができ、収益性を維持することが可能になります。

シリコンウェハは高い技術力と実績がモノを言う、参入障壁が非常に高いビジネスです。同社は特にメモリ向けの汎用的なウェハで大きな収益を上げています。ウェハでも塩ビと同様に、他社と比べて従業員一人当たりの売上、すなわち生産性が高く、長期契約により市況が悪化した時でもしっかりと顧客に納品することで、工場の稼働を高い水準に保っています。

主力の塩ビ樹脂やウェハの事業では特に、他社が生産性で同社に追いつくのは決して簡単ではなく、中長期的な成長が期待できるクオリティグロース銘柄だと考えています。(大月 天道)



●売却した銘柄について

【エスプール】

同社に対しては、障がい者雇用支援サービスの社会的意義とその成長性を評価していました。一方で、それ以外の事業はいずれも不確実性が高く課題がありました。

よってエンゲージメント方針としては、障がい者雇用支援サービス以外の事業への積極投資は控えて、主力の障がい者雇用支援サービスに同社の経営資源を一層、集中をしていただきたと考えていました。その旨を繰り返し同社に伝えて、対話を長期的に継続していく方針でした。

ただし、エンゲージメントをするためには、まずは定期的な対話の機会を頂かなくてはなりません。上期決算に際して、同社には個別の取材及び対話のための訪問アポイントを複数回にわたりご相談してまいりましたが、日程調整が上手く進まず、残念ながら、面談が実現できませんでした。この状況で保有を継続するのはむしろ受益者に対して不誠実な対応となると考え、やむなく全株を売却するに至りました。

その後、両社のコミュニケーションにおける相互認識のズレが解消され、10月に面談を設定することが叶いました。

引き続き当社のクオリティ・グロース企業の候補として、しっかりとリサーチを続けて参ります。(山本 潤)

運用状況については、動画「月刊なかの号」もご覧ください！

タイムリーかつ身近な話題を中心に市場動向・ファンドの運用状況も含めてわかりやすい情報提供を行っています。





●運用チームから

| 氏名 | 役職 | コメント |
|--|---------------------------------------|--|
|  | 代表取締役社長 最高投資責任者 (CIO) | なかのアセットは2024年9月1日で創業1周年です。昨年のこの日、創業メンバーで決起会をして、翌10月1日に行った兜町の事務所開きには、居林・秋元が加わっていました。1年前にはまだ運用会社のライセンスもなくて、ビジョンだけを語り合っていました。それから続々と仲間が集い、運用開始から4か月経った今では、20名の濃厚メンバーが揃って、とりわけ運用部門は8名の強力チームで日々精力的なリサーチに勤しんでいます。新NISA元年の現在はインデックスファンドが全盛で、当社は本格アクティブハウスとして言わば逆風下でスタートしました。アクティブ運用が真に評価を受けるまでには実績を示す時間が必要ですが、そこまではなかのアセットの企業理念と運用哲学、それに忠実な一貫した運用アプローチを、そして各メンバーがワクワク活動している姿を、将来成果に鑑みながら見てください。皆さんとワクワクを共有する運用会社に仕上げてまいります！ |
| 中野 晴啓 | | |
|  | 運用部長 兼 チーフポートフォリオ オマネジャー | 運用チームの全員が揃って2か月が経過し、各々がリーダーシップをとり、互いをフォローし合うよい状況です。なかのアセットはワンチーム。互いを認め合う真のプロフェッショナル集団としてみなさまのために鋭意努力いたします。チーム運営の第1条第1項は「常にベストコンディションを保つ」です。食べて勝つ。わたしたちの体は食物から作られます。無農薬玄米と自然農法の野菜と新鮮な青魚と有機納豆で調味料も自然由来にこだわり腸内環境を管理します。グラスフェッドの脱脂粉乳とグレインフェッドのそれとでは、ヤクルトIR曰く「シロタ菌の発酵スピードが全く違う」とのことです。ミルクも飲むなら低温殺菌のグラスフェッドです。もっとも健康的なものももっとも美味しい。基準高く生きるためのファンダメンタルズが食のクオリティの高さです。 |
| 山本 潤 | | |
|  | 運用副部長 兼 シニアポートフォリオ オマネジャー | 職業柄、経営者の本をかなり読みます。米国を中心に海外の経営者の本と日本の経営者の本とを比べると、日本の経営者の本は心構えや人生訓にまで昇華した本が多いように思います。京セラの稲盛氏や、信越化学の金川氏、日本電産の永守氏などの本を読んで影響を受けているので、特にそう思うのでしょうか。最近、金川氏の常在戦場を読んで特にそう思いました。 |
| 居林 通 | | |
|  | シニアポートフォリオ オマネジャー 兼 シニアアナリスト | 8月5日は日本版ブラックマンデーとでもいうのでしょうか？売りが売りを呼ぶという言葉がぴったりでした。1987年夏、ボルカーから交代したグリーンSPANが米連銀議長に就任。いきなり9月に利上げを決めてしばらく、10月19日だけで、20%の暴落が発生しました。マジェランファンドで有名なピーター・リンチ氏の”著作”One up on Wall Street”のプロローグに、1年前の苦い思い出として描かれています。最後に「良い企業は生き残り、平凡な会社は失敗し、それぞれの投資家はそれなりの報いを受ける。良い会社をどうやって見分けるかということがキーポイントである。」としています。債券外回り営業だった私の思い出は、新聞株式欄が”ヤリ”という文字だらけになっていたことです。日本株がバブルに向かう上昇へ再始動するのは数か月後のことでした。 |
| 菅 淑郎 | | |
|  | ポートフォリオオマネジャー 兼 シニアアナリスト | 「世の中をより豊かにする企業にお金を融通する」。これが私自身のミッションです。社会の公器たる企業は、顧客、従業員、取引先企業をはじめ、地球環境を含めた世の中全てにとって、より良い存在であることが求められます。私はこうした責務を十分に果たし、世の中をより豊かにする企業・経営者にお金を託したいと思っています。一方、そのような志のない企業に対しては、市場機能を通じて退出を促すことで、結果として「世の中をより豊かにする企業」で世界が彩られていくと信じています。そして、市場の新陳代謝に規律をもたらす存在が私たち投資家です。私たち自身もまだまだ未熟ですが、企業の志に真摯に向き合い、基準を高く持って業務を遂行してまいります。 |
| 佐藤 栄二 | | |

次のページへ続く →



●運用チームから

| 氏名 | 役職 | コメント |
|--|----------|--|
|  | シニアアナリスト | 暑い日が続いてますね。皆様いかがお過ごしでしょうか。 8月の末に関西出張に行ってきました。2日間で京都、大阪、神戸の企業を6社回るといややハードなスケジュールでしたが、島津製作所様には京都本社にあるサイエンスプラザで実機を見せていただいたり、対面取材ならではの収穫がたくさんありました。また、改めて皆様にも報告させていただきます。 |
| 大月 天道 | | |
|  | アナリスト | 皆さま、いつもありがとうございます。私は8月にお盆休みを頂き、家族とそわそわした一週間を過ごしました。皆さまの中には南海トラフ地震注意報で、不安な一週間を過ごされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。実家は太平洋に面した海岸から徒歩5分の町にあり、ハザードマップによると南海トラフ地震発生後8分で10m弱の津波が押し寄せ、流されてしまうこととなります。幸い帰省中だったことで、家族の避難準備・経路、家具の固定等を私自身が改めて見直すことができました。現在も地震の脅威は変わらず、恐怖に慄く方、ご家族と離れて暮らす環境で心配される方などが多くいらっしゃることでしょう。なんてことない日常がいかに尊い存在であるのか、身に染みる思いです。私は震災後に家族をサポートできるよう、資産形成を頑張ろうと思います。 |
| 谷 亜矢野 | | |
|  | アナリスト | 自己紹介です。私は大学院を修了して、この4月より働き始めました。在学中に、上におります山本さんや大月さん(社内ではさん付けで呼んでおります)のいた運用会社でインターン経験があり、本ファンドの運用哲学に共感しての入社となります。 さて、紙幅が余りましたので一つ皆様にご提案です。皆様とのコミュニケーションを大切にしたいと考えているため、マンスリーレポートの構成や文面は、毎月ゼロから時間をかけ新たに作成し直しております。「どんな人たちが何のためにどんな仕事をしているんだろう??」という皆さまの疑問に、毎号素直に誠実に一生懸命答えようとしております。手前味噌で恐縮ですが、弊社メンバーが一丸となりワンチームで書いておりますこのレポートを、過去号からぜひさかのぼってお読みください。 |
| 関口 耕大 | | |

今回から運用チームのコメントは各自が自由に書くことになりました。個性豊かなメンバーが感じたことや思ったこと、皆さまに伝えたいことを綴っています。その他、今月の個別銘柄紹介は【直近の決算について】それぞれ担当者がコメントを書いています。企業に対する目線も執筆する担当者の個性が溢れていますので、ぜひ今月の個別銘柄紹介もご一読ください。(秋元 祐毅)

follow me!

各公式SNSで情報を発信しています！



YouTube

note





●8月25日マンスリー運用報告会の様子



8月25日(日)は毎月恒例のマンスリー運用報告会を行いました！
 今回は代表の中野も登壇し満員御礼の中、当社2ファンドが運用開始して約4ヶ月の状況をご報告しました。2名のファンドマネージャーや各アナリストからご報告を行い、会場のお客さまからのご質問にも丁寧にお答えした120分でした。
 次回は9月14日(土)の東京開催です！その他9月の通常セミナーは富山、宇都宮、沖縄です！
 お近くの方はぜひお越しください！

セミナー情報はこちら！→

<https://nakano-am.co.jp/seminar/>



～基準価額とは？「額」より「率」が大切！～

みなさま、こんにちは✧
今回はマンスリーレポートに出てくる「基準価額」について解説します。

基準価額とは、投資信託の1口または1万口当たりの価格のことです。
一般的に新聞等に掲載されている基準価額は1万口単位になっているものがほとんど(当社のファンドも1万口あたりです)で、毎営業日取引終了後に1度だけ計算されます。そのため購入や売却の申し込み時は基準価額がわからないようになっています。これは「ブラインド方式」と呼ばれ、すでにその投資信託を保有している投資家との公平性を確保するために行われています。
なかのアセットのHP上でも毎日、前日の基準価額が公開されています。

今回はその基準価額について詳しく解説します。
基準価額の計算式
基準価額とは、投資信託の値段を口数単位で示したものです。
基準価額は毎日計算されます。
投資信託の購入や売却は基準価額をもとに計算をされます…

続きはnoteで！→

<https://note.com/nakanoam/n/nb6b9f4b43581>



※ 巻末記載の「当資料をご利用にあたっての注意事項等」を必ずお読みください。



【CIO探訪記】

～当社CIO(最高投資責任者)中野の見聞録～

8/1 コモンズ投信さんの新オフィスにお邪魔してきました。

青山一丁目の最上階フロアからの眺めは最高でした！眼下に広がる景色の中には神宮球場もあって試合のある日は花火も打ち上がるそうです。

あいにく伊井社長はご不在でしたが、渋澤会長と本格的なアクティブ運用の普及を目指す同志として話が盛り上がりました。

渋澤会長は昨年中野の退任時にいち早く「励ます会」を開催くださって、それ以来の久しぶりのご対面。

ご存じの方も多いかと思いますが渋澤会長は日本資本主義の父と言われ日本社会の礎を築き、新一万円札の肖像となった渋沢栄一の玄孫にあたる方です。



～編集後記～

マンスリーレポートではなるべく多くの情報をなるべく読みやすくなるように、弊社メンバーが一丸となりワンチームで作っています。毎月初旬には編集会議を行い、次回掲載するレポートの内容を決め、月末になると一か月を振り返ってお客様に伝えなければならないことの整理を行い、レイアウトやコメントの作成をしています。

当社は透明性を大切にしていますので、どんなことが書いてあったらお客様に喜んでいただけるのだろうかと常に考えを巡らせています。

第一号のレポートからみて、毎月内容が変化していることに気付いていただけるかと思います。アナリストの関口もコメントしていますが、ぜひ過去にさかのぼってお読みください。(秋元 祐毅)



●ファンドの目的・特色

ファンドの目的

主として、国内の金融取引所に上場している株式に投資し、信託財産の成長をめざして運用を行います。

ファンドの特色

- 1 確度の高い長期的な利益成長が見込まれる(クオリティ・グロース)企業への厳選投資を通して信託財産の長期的な成長を目指してボトムアップ運用を行います。
- 2 株式投資は高位を維持します。また、売買回転率は低水準に抑えます。
- 3 運用プロセスは以下の通りです。
 - ・ユニバースの選定基準
投資先企業については長期に渡る利益の成長が確度高く見込まれる企業を厳選し、期間と成長率の積の大きさ及びその確度の高さでユニバースを構築・管理・維持します。
 - ・独自のボトムアップ調査と銘柄選定
投資候補先企業の提供する財やサービスを深く洞察し、取材に基づく長期の業績予想を行います。成長率、成長期間、資本コスト、市場環境から理論株価を算出し、株価水準との対比で年率のアップサイドの確度と大きさで投資判断を行います。
 - ・エンゲージメント
投資先候補の経営課題を洗い出し、成長率、成長期間、資本コストを改善するための対話と提案を定期的に行います。企業との対話を継続し、企業の永続的な成長性の底上げを行うよう努力します。
 - ・ポートフォリオ管理
厳選された投資先企業との対話を定期的に行い、ボトムアップリサーチによる長期の業績予想を継続的に行い、理論株価と現株価との乖離と業績予想への確度の高さをもってポートフォリオを適宜見直します。1-2年のリターンではなく、10-20年において数倍から数十倍になる投資リターンの達成を目指します。

ファンドの仕組み

当ファンドは、主にマザーファンドに投資するファミリーファンド方式で運用を行います。

分配方針

毎決算時(原則として毎年4月24日。ただし、休業日の場合は翌営業日。)に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

- ・分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
 - ・分配金額は委託者が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。
 - ・留保益の運用については特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。
- ※ 将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

●投資リスク

基準価額の変動要因

- ・ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**
- ・**信託財産に生じた利益および損失は、全て投資者の皆さまに帰属します。**
- ・投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの主なリスクは以下の通りです。

●価格変動リスク

株式の価格は発行者の業績、経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。また、債券の価格は市場金利や信用度等の変動を受けて変動します。ファンドはその影響を受け、組入株式や組入債券の価格の下落は基準価額の下落要因となります。

●信用リスク

組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。

●流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。

●集中投資リスク

当ファンドは、銘柄を絞り込んだ運用を行うため、市場動向にかかわらず基準価額の変動は大きくなる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。



収益分配金に関する留意点

- ・ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- ・ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- ・ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

その他の留意点

- ・ ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ・ ファンドは、大量の解約が発生し、短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。
- ・ 一般的に、時価総額が小さい、取引量が少ない等流動性が低い市場、あるいは取引規制等の理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落の要因となる場合があります。

リスクの管理体制

委託会社では、リスク管理規程や運用モニタリング規程等の社内規程において、リスク管理の対象となるリスク、リスク管理体制および管理方法等が定められています。

- ・ 委託会社は受託者責任を常に念頭に置いたうえで、投資信託の「投資リスク」を適切に管理するため、①運用部門において、投資信託の各種リスクを把握しつつ、投資信託のコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うこと、②運用部門から独立した管理部署によりモニタリング等のリスク管理を行うこと、を基本の考え方として、リスク管理体制を構築しています。
- ・ 委託会社では、流動性リスク管理に関して、投資信託の組入資産の流動性リスクのモニタリング等を実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証等を行います。委託会社の取締役会等では、流動性リスク管理を含めた実効的なリスク管理体制の整備、運用について監督します。

● 手続・手数料等

お申込みメモ

| | |
|------|---|
| 購入単位 | 販売会社が定める単位とします。 ※ 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 |
| 購入価額 | 購入申込受付日の基準価額(1万口当たり)とします。 |
| 換金単位 | 販売会社が定める単位とします。 ※ 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 |
| 換金価額 | 換金申込受付日の基準価額とします。 |
| 信託期間 | 無期限(2024年4月25日設定) |
| 繰上償還 | 委託会社は次のいずれかの場合には、繰上償還することがあります。 <ul style="list-style-type: none">・ 純資産総額が10億円を下回ることとなった場合。・ 信託契約を解約することが投資者(受益者)のため有利であると認めるとき。・ やむを得ない事情が発生したとき。 |
| 決算日 | 原則として、毎年4月24日とします。(休業日の場合は翌営業日) 第1決算日は2025年4月24日とします。 |
| 収益分配 | 原則として、年1回の決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。 ※ 販売会社との契約によっては再投資が可能です。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 |
| 課税関係 | 課税上は株式投資信託として取り扱われます。 <ul style="list-style-type: none">・ 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。・ 当ファンドは、NISAの「成長投資枠」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。・ 配当控除の適用があります。・ 益金不算入制度は適用されません。 |



ファンドの費用・税金

●ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- ・ 購入時手数料 **ありません。**
- ・ 信託財産留保額 **ありません。**

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- ・ 運用管理費用(信託報酬) 信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、ファンドの純資産総額に対して、**年率1.1%(税抜1.0%)**を乗じて得た額とします。運用管理費用は、日々計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払われます。
- ・ その他の費用・手数料 監査費用、租税、信託事務の処理に要する諸費用等。監査費用を除くその他の費用・手数料は、その都度信託財産から支払われます。
※これらの費用・手数料等については運用状況等により変動するものであり、事前に料率・上限額等を示すことができません。

※ 投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することはできません。

●税金

税金は表に記載の時期に適用されます。

以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

| 時期 | 項目 | 税金 |
|-------------------|-----------|---|
| 分配時 | 所得税および地方税 | 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315% |
| 換金(解約)時 および償還時 | 所得税および地方税 | 譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して20.315% |

※ 少額投資非課税制度「愛称:NISA(ニーサ)」をご利用の場合

NISAは、少額上場株式等に関する非課税制度です。

NISAをご利用の場合、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした商品を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※ 法人の場合は上記と異なります。

※ 上記は、2024年2月末現在のものです。税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

●委託会社およびファンドの関係法人

| | |
|-----------------------------|---|
| 委託会社 ファンドの運用の指図を行う者 | なかのアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3406号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会 ホームページアドレス: https://nakano-am.co.jp/ |
| 受託会社 ファンドの財産の保管および管理を行う者 | 野村信託銀行株式会社 |

| 販売会社 ファンドの募集の取扱い等を行う者 | 登録番号 | 日本証券業協会 | 一般社団法人 日本投資顧問業協会 | 一般社団法人 金融先物取引業協会 | 一般社団法人 第二種金融商品取引業協会 |
|--|--------------------------|---------|---------------------|---------------------|------------------------|
| 楽天証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 第一生命保険株式会社 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第657号 | ○ | ○ | | |
| マネックス証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 株式会社イオン銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社) | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第633号 | ○ | | | |
| 株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社) | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号 | ○ | | ○ | |
| auカブコム証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 株式会社北國銀行 | 登録金融機関 北陸財務局長(登金)第5号 | ○ | | ○ | |

●当資料をご利用にあたっての注意事項等

- ・ 当資料はなかのアセットマネジメント株式会社が作成した資料であり、法令に基づく開示書類ではありません。
- ・ ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- ・ 信託財産に生じた利益および損失は、全て投資者の皆さまに帰属します。
- ・ 当資料は、なかのアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その内容の完全性、正確性を保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- ・ 投資信託は預金または保険契約ではないため、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関で購入いただいた場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
- ・ 本資料で使用している指数等に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表元に帰属します。